土・人・水

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

第16回ふれあいイベント「土・人・水」

平成27年8月22日(土)越荒沢親水広場にて第16回ふれあいイベント「土・人・水」が無事開催されました。当日ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

義援金は、当協議会の宮田哲二常任委員から、大町市長に手渡しました。
野菜総売上16，490円　募金額7，500円　総額23，990円

平成10年に地域用水機能増進事業によって、県内でも先駆けとして越荒沢堰地区の改修が行われ、農業用水不足が解消し、漏水の著しい未改修部分が整備され地域用水の安定が図られるようになりました。それ以来、地域の自然を生かした水辺環境や用水機能を増進させるため、農業用水利用者や地域内の子どもからお年寄りまでが一体となり、協働の力で周辺の水辺空間を維持する活動のひとつとして、ふれあいイベント「土・人・水」が開催されてきました。

イベントではこれまで、地域の方々と交流を深める楽しい企画として、オオヤマザクラ植樹、せせらぎ水路づくり、稚魚の放流などが行われてきました。昨年度は〝みどり旬菜市場〟と題してあずまやにて農産物チャリティーバザーを企画・開催し、トマト、きゅうり、ナスなど地元農家の方が一生懸命育てた農産物を、その愛情と共にお届けしました。

このチャリティーバザーは、去る平成26年11月22日に発生した市内の神城断層地震で被災された方々へのお見舞い、そして被災地の一日も早い復興のためにできることは何か?支援をかたちにするためチャリティーバザーの場を設けることにしました。

今回この企画に対し、地元農家や関係機関の皆さまからたくさんのサポートをいただいたこと、また、あたたかい気持ちで募金にご協力いただけたことに深く感謝いたします。

定例総会と絵画展表彰式

平成27年度水土里ネットおおまち地域用水対策協議会総会に先立ち「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015募集作品の表彰式が行われました。

表彰式が始まるまでの間、子どもたちの表情は緊張して強張るばかり。名前を呼ばれ、会長より受賞者に賞状と記念品が贈られると委員や保護者の方々から大きな拍手が送られました。表彰式が終わり感想を聞くと、「選ばれてびっくりした」「うれしかった」と素敵な笑顔で話してくれました。

なお、入選された作品については裏表紙に掲載、ご紹介していますのでご覧ください。

自然の恵み

昨年の冬は、例年に比べ暖冬だったこともあり、降雪量も少なく各地のスキー場ではオープン時期延期や営業中止になるところまでありました。

日本の年平均気温は、1898年の統計開始以来4番目に高い値となったようで、これらはエルニーニョ現象の影響とも言われ、加速的に進行する地球温暖化のためと言われています。

北アルプスの麓にある大町市では、屋根の雪下ろしの心配もなく比較的楽な冬でありましたが、雪のおかげで生活が成り立っていた方々にはお気の毒でしたし、地域に活気がなくなるという悪影響も見られました。山に降った雪は春になると少しずつ溶けだし、野山や田畑を潤し、地域の人々の心にも潤いや安らぎを与えてくれる「自然の恵み」です。しかし、急峻な地形であるがために、その流れは一瞬のうちに流れ下ってしまい、本格的な夏が訪れるころには地域の水資源量の枯渇が懸念されます。

自然が与えてくれる水は梅雨時や台風の際には被害をもたらす「怖さ」と、もう一方で無いときになって初めて気づく「ありがたさ」を併せ持っています。

暮らしに無くてはならない「水」をもう一度見つめ直してみませんか。

大蔵宮用水と高根新田村の開発

はじめに

江戸時代には、現在の大町市大町には村高1797石余の大町村と126石余の高根新田村の二つの村落がありました。両村は明治8（1875）年に筑摩県の許可により合併して新生の大町村が誕生し、15年には「大町」と改称し、さらに明治22（1889）年の町村制施行により大町という「町」となりました。

小さいながらも一村であった高根新田村は、高瀬川左岸の段丘上に開けた水田地帯で、古くから高瀬川の氾濫と洪水に悩まされてきました。元来は野口堰の流末を高根中堰や北村堰として利用しながら耕作してきた大町村の一部が、江戸時代の初めに大蔵宮堰（用水）が開鑿されたことから開発が進み、承応3（1654）年には独立した村落として立村しました。しかし、代々の庄屋は大町村の有力者が勤めるなど密接な関係にあったことから大町村に吸収される形で合併になりました。今回は、大蔵宮堰の開鑿を中心に高根新田の開発経過について考えてみたいと思います。

大蔵宮堰（用水）の開鑿と現況

現在の大蔵宮堰は、昭和電工管理の大出頭首工で分水され、鹿島川を横断して久保の調整池を通過し、野口の産土神である大宮神明宮直下の高瀬川河川敷を流れて段丘上へと導水され、行人塚沈砂池で高根中堰と中村堰に別れています。高根中堰は、野口堰の流末を受け取りながら南東方向に向かって流れ、途中で長吉堰や北村堰、古宮堰を派出させて高根地域をはじめ若宮、大新田、光明寺や糸芝一体を灌漑し、農具川へ流入しています。また、中村堰は、段丘の縁に沿って定橋方面へ流下し、高瀬川沿岸の灌漑に利用されています。

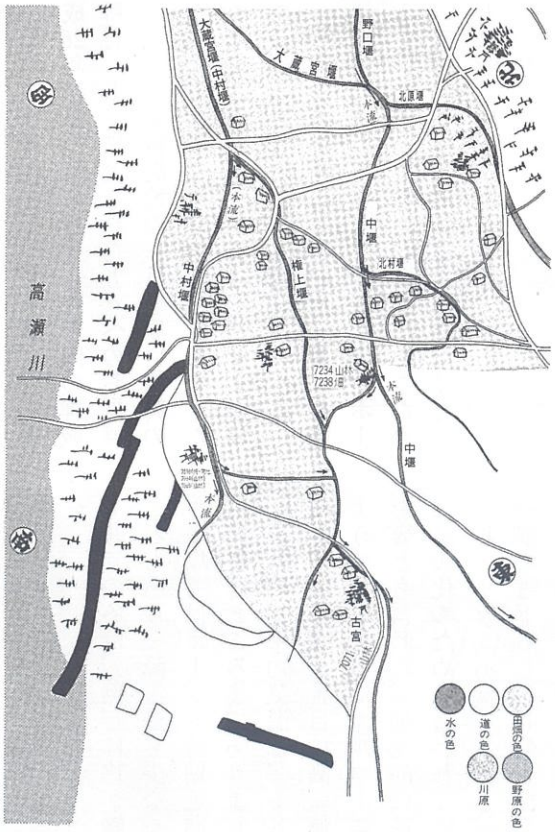
こうした形態となったのは、大蔵宮堰が従来からの既存用水の流末を最大限に利用した結果と考えられます。また、取水口についても元来は野口の久保地区で鹿島川から直接取水する構造であったものが、大正時代から始まった高瀬川の電力開発や戦後の高瀬川上流地域総合開発事業により現状のように大きく変更されました。用水堰の名称も久保地区の水神である大蔵宮にちなんだものとされています。

堰土手や流路は、等高線に沿って緩やかな勾配で築かれており、当時としては優れた技術の成果が各所にみられますが、高瀬川の河川敷や段丘の縁に沿っているために洪水の被害を受けやすく、流失を繰り返してきました。松本藩や大町組では、周辺村落から応援を得て大規模な川除普請を繰り返し実施し、こうした努力によって用水堰が維持されてきました。江戸時代末に描かれたと推定される絵図には高瀬川に沿って築かれた堤防がいく筋も描かれており、当時の苦労がしのばれます。

高根新田村の開発

次に高根地区の開発経過について述べてみます。大蔵宮堰が開鑿される以前の高根地区は、野口堰の流末を高根中堰へと導水し、北原地区に隣地する地域や周辺に比べて僅かに標高が高い古宮・光明寺周辺などから開発が始まったと考えられます。高瀬川の河床が下がり、治水が進むと氾濫の危険性が少しずつ低下し、開発が本格化したのは江戸時代の前期でした。寛永20（1642）年の史料によれば、当時、大町村内ながら村高30石余の小集落が成立していました。

また、江戸時代中期に書かれた記録にも「大町の地先であり、仁科氏の猿楽舞台と伝える台地状の土地を中心に松林が広がっていたが、寛永年間に所有者である大町村の栗林五郎右衛門の世話により一村になった。」と記載されており、寛永年間に大蔵宮堰の開鑿によって広大な松林の開発が進み、大町村有力者の支援によって独立した村落となったことがわかります。



年代不詳高根新田村絵図（模写）
（高根町　倉科氏文書『大町市史』より）
松林の中に点在する集落や用水堰の様子、高瀬川に沿って築かれた堤防などがよくわかります。

高根地区の多くは高瀬川の氾濫原でしたから開墾には大変な労力を要しました。しかし周辺地域からの移住もあり、承応(しょうおう)3(1654)年に検地が行われ、新たに開発された耕地19町歩余と大町村分とされていた耕地を合せて26町歩余、村高95石余りの新田村が誕生しました。その後も開発が進み、貞享4(1687)年の居住人口は107人でしたが、江戸時代末の安政3(1856)年には、177人まで増加しており、村高も126石余に増加しました。

大蔵宮堰の流れをたどりながら、地域の開発に取り組んだ人々の知恵と苦労を偲んでいただければ幸いです。

(文責　荒井今朝一)

現在の大蔵宮堰の流況(行人塚沈砂地付近)

大町北小学校社会科見学

昨年10月14日大町北小学校4年生の社会科見学が行われました。水土里ネットおおまち(大町市土地改良区)には大町市教育委員会を通じて協力依頼があり、大町新堰が鹿島川を横断する施設がある西口沈砂池にて沈砂池の仕組み等について説明を行い、実際に水門を開き、溜まった土砂を排出する様子を見学してもらいました。

排砂門の操作を見学している子どもたち

この社会科見学は自分たちの学校にある「ひょうたん池」に流れ込む用水路を上流に辿り、水はどこから来ているのか、またその水が流れる用水路はどのように作られ、どのような役割をしているのかを学習する目的で実施されているそうです。この学習で次世代を担う子供たちに大切な水の意味を少しでも考えてもらえればと感じました。

三重県土地改良事業団一行視察案内

昨年7月29日、三重県土地改良事業団体連合会津支部会員一行30名の方々が「地域を生かした土地改良区の活動について」という研修テーマで大町市まで視察に来られました。今回「大町市土地改良区」を視察先に選ばれた背景には、大町市土地改良区で発信しているブログに興味を抱かれたそうで、我々としてもこれまでの成果が認められたと大変うれしく感じています。

視察当日は、前夜から大町温泉郷に宿泊されていた一行を宿まで出迎え「越荒沢親水広場」周辺のご案内と当協議会で毎年開催しているイベントについて、現地に於いて説明を行いました。活動を通して土や水に触れあうことで、その大切さを認識してもらえるようになり、農家や非農家を含め地域の一体感が生まれた状況を十分に理解していただけたようです。

その後、市役所会議室に移動し、高瀬川上流地域の画期的な水利運営状況や小学生を対象にした総合学習のお手伝いの様子など、プロジェクターを用いて説明を行いました。農業用水と発電用水を有効利用し、安定した水利用を行うことを可能にした水利システムには感嘆の声が上がっていました。

また、小学生を対象にした総合学習への取り組み状況や、水利運営上の問題点などに関して活発な質疑があり、約2時間の研修を終えた一行は帰路につきました。

第17回ふれあいイベント「土・人・水」案山子コンテスト

恒例となった、ふれあいイベントは、今年で17回目となります。今年は平成12年から続くこのイベントの趣旨に立ち返り、越荒沢堰親水広場周辺の景観整備、魚のつかみ取り、稚魚の放流を行います。

また当日、親水広場で行う「案山子コンテスト」の出展作品も募集していますので、左記事務局までお問い合わせください。

◆主　催　水土里ネットおおまち
　　地域用水対策協議会
◆日　時　8月27日(土)
　　午前7時半開会
　　正午終了予定
◆会　場　平小熊原
　　越荒沢堰親水広場

水土里ネットおおまち
(大町市土地改良区)
TEL(22)5542

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015

市内小学生の米づくり体験の様子や表情が、木版画の鮮やかなコントラスト、水彩画のみずみずしい色使いで表現されています。

寄せられた作品は、水土里ネットおおまち地域用水対策協議会において審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。（敬称略）

理事長賞

「稲の成人式」

大町西小学校　黒岩　万奈

会長賞

「稲刈り」

大町北小学校　石渡　葉月

努力賞

「刈った後のひも結び」

大町北小学校　横山　華音

「収穫！米大量！」

大町西小学校　滝田　崚真

「一所懸命の稲かり」

大町西小学校　大塚　瑞生

「稲刈り」

大町北小学校　松下　蓮